

第 64回 株式会社 USEN 放送番組審議会 議事録

開催日時:2020 年 1 月 23 日 16:00～

開催場所:東京都品川区上大崎 3-1-1 USEN 本社



■出席者

湯川 れい子 委員長
富澤 一誠 委員
品田 英雄 委員
和合 治久 委員
長谷川 演 委員

■欠席者

大林 宣彦 委員

■局側出席者

代表取締役社長 田村 公正
取締役副社長 大田 安彦
コンテンツプロデュース統括部長 山下 光儀
コンテンツプロデュース統括部編成部長 松本 茂雄
コンテンツプロデュース統括部制作部長 村田 徹
コンテンツプロデュース統括部制作部制作1課長 小島 万奈
コンテンツプロデュース統括部制作部制作1課 飯田 隼也

【番組審議会事務局:森角、林、大園】

議事内容

1. 会社動向、放送事業動向についての報告

(1)第 56 期第1四半期経営成績について

売上高は U レジ販売好調により店舗ソリューションは上振れもエネルギーが未達。営業利益・経常利益・当期純利益は計画を上回って推移した。

(2)分煙対策の喫煙ブース設置の推進について

健康増進法の改正が 2020 年 4 月から全面施行され、飲食店でのたばこのルールが変わり屋内は原則禁煙に

(各自治体個別の条例あり)。屋内で喫煙可能にするには喫煙室の設置が必要。事業者(店舗)への受動喫煙対策支援として、助成金や税額控除が整備されているが、これらの支援を受けるには3/31までに工事完了/検査/施工会社支払の全てを完了する必要があり、申請・交付まで非常に時間を要するため、見積・納品を急ぎ進めている。

(3) 2019 年間 USEN HIT ランキングについて

2019 年 12 月 20 日に各ジャンル主要チャンネルのオンエア実績や、お客様からのリクエストを基に集計した「2019 年間 USEN HIT ランキング」(8 部門)を発表した。

(4)「BGM がコールセンターのオペレーターに与える効果」研究成果について

2019 年 11 月 27 日、大妻女子大学、トランスコスモス株式会社と共同で行った「BGM がコールセンターのオペレーターに与える効果」研究の成果を発表した。本研究ではオペレーターのストレス軽減に、BGM は一定の効果があることが明らかとなった。

(5)『With Music』の発行について

2019 年 12 月、会報誌『With Music vol.50(2020 年 1~3 月号)』を発行。業務店/個人宅のお客様にお届けした。

2. 審議課題

次世代を担う BGM コンテンツとは ジャズ編

3. 【対象番組】

- A-13 ジャズ・スタンダード
- (新番組企画) Stylish Jazz

4. 審議

【放送局】

今回は「次世代を担う BGM コンテンツとは ジャズ編」を審議テーマとし、USEN のジャズジャンルの中で代表的な番組「A-13 ジャズ・スタンダード」と次世代のスタンダード BGM としていきたい新番組企画「Stylish Jazz」を審議頂きたい。

【審議委員】

私は高校生から大学生の頃、周りの先輩方がジャズを聴いているのに憧れてジャズ喫茶に通ったり、ジャズが流れる数少ないラジオ番組を聴いたりする等、熱心にジャズを聴いていた。「A-13 ジャズ・スタンダード」はスロー～ミディアムテンポでの選曲で、デモの中には知らない曲も多かったので、ジャズ喫茶で当時流れていたスタンダードなジャズではなく、パブや喫茶店のような洒落た場所で流れるようなジャズという印象を受けた。また、聴いているうちに気持ちがほぐれ、心地良いと感じられたので、BGM として非常に優れていると思う。この番組のディレクターは若いですが、ディレクター自身はこの番組に対しレトロさ、古臭さを感じるのだろうか。

【放送局】

ジャズ以外のジャンルを比較するとレトロさ、古臭さは感じるが、ジャズジャンルの中では古臭いとは感じない。

【審議委員】

USEN が流れるお店を利用するお客様を含め、若い人がレトロさ、古臭さを感じるのであれば選曲内容を見直すべきだと思うが、感じないのであれば今のままで問題ない。これまで審議した番組は BPM や音質等選曲の統一感の無さを指摘する事が多かったが、この番組は統一感が有り、1954～64 年に録音された音源は完璧で、ランダムに放送するだけで非常に心地良いというのは私にとって大きな発見だった。

それに対し、「Stylish Jazz」は聴いていて非常に緊張感が有った。私が大学に入学した 1976 年頃にジャズフュージョンやクロスオーバーが生まれ、ジャズの定義が次第に変わり、今も特にヨーロッパでは新しいアーティストが環境音楽やアンビエントをジャズに取り入れる事で「現代におけるジャズ」を追求している。「Stylish Jazz」には聴く人に緊張感を与えようというアーティストの意図が伺える楽曲が選曲されているが、BGM に緊張感が必要とされている場所が思い浮かばない。次世代のアーティストが目指しているものが「Stylish Jazz」という枠なのか、というのは他の審議委員の意見も聞き、今後の方向性を決めていけば良いと思う。

【審議委員】

「A-13 ジャズ・スタンダード」で選曲されている楽曲が録音された 1954～64 年は、私が中学校に入学した頃であり、田舎で育った私は当時ジャズの中でも穏やかなものを聴いていた。私も「A-13 ジャズ・スタンダード」は実際のスタンダードなジャズとは異なり、USEN が提言しているスタンダードなジャズであると感じた。「A-13 ジャズ・スタンダード」はスロー～ミディアムテンポでの穏やかな選曲内容であるため心の安定感が得られた。非常に透明感もあり、「大人のくつろぎ空間をやさしく演出する BGM」という番組の狙いに合った選曲内容だと感じた。個人的には育った背景も含め、私の年代にとっては非常に聴き易い番組である。「制作時の検討課題」に「新しい音源のリリースがほとんど無い為楽曲が中々増えないが、年代を広げてでも曲数を増やすべきか」と有るが、USEN が提言している「ジャズ・スタンダード」にはどのような要素が有るか分からないので、ディレクターが慎重に考えるのが良いと思う。「テンポをスロー～ミディアムに設定しているが、現在のテンポが適切か」という点に関しては、スロー～ミディアムテンポに設定している事によって穏やかさや透明感を出す事が出来ていると感じられるのでそのまま良いと思う。

一方、「Stylish Jazz」は斬新な新感覚で選曲されているのだろうが、世代によっては好まない世代も有るという印象を受けた。音楽において、或いはジャズにおいてスタイリッシュさをどのように定義付けるか分からないが、高齢者は音楽にスタイリッシュさを求めないであろうし、私のように田舎で育った人は「Stylish Jazz」の特徴の一つであるエレクトリックな要素は受け入れられなかった。また、もう一つの特徴として挙げられている透明感も、あまりにも楽曲が激しかったので私は感じなかった。しかし、若者は格好良さを求めるので聴く世代を考えて選曲するのは良いと思うし、若いディレクターが新番組を企画するのは進歩という点では意味が有ると思う。

【審議委員】

USEN ではどのようなジャズをスタンダードと定義しているのだろうか。

【放送局】

USEN の中でのスタンダードの定義は確かに有り、「A-13 ジャズ・スタンダード」にはミュージカルで取り上げられたような曲も選曲している。また、ディレクターは二人とも学生時代に『Great American Songbook』という本を教材にしてジャズを演奏していた。そういった教材はあくまで演奏者向けで聴く人向けではないが、選曲の際はその中から敢えてゆったりした楽曲も選曲している。

【審議委員】

世の中には変わらなくては駄目なものと、変わっては駄目なものが有り、「A-13 ジャズ・スタンダード」は後者だと思う。10年後、20年後はもしかすると選曲内容を見直さなくてはならなくなるかも知れないが、そもそも人気番組でもあるので全く変えなくて良いと思う。私のような音楽に詳しくない人にとってはUSENがスタンダードと言えばスタンダードだと思う。

【放送局】

先程、他の審議委員から「A-13 ジャズ・スタンダード」は聴いているうちに気持ちがほぐれ、心地良さを感じる一方で、世代によってはレトロさや古臭さを感じるのだろうかという疑問が有ったが、それに関してはどのように感じたか。

【審議委員】

古くなるのもある種の良さだと思う。

【放送局】

これから新しく店を開く若い人達が心地良さよりも古臭さを感じて、この番組が使われなくなるのではないかという懸念も有る。

【審議委員】

いずれはその時が来るかも知れないが、USENにはジャズジャンルだけでも沢山番組が有るので、他の番組を使えば良いと思う。私は、この番組は今のまま変わらないでいて欲しい。札幌では大体どの飲食店でもジャズが流れているのだが、「A-13 ジャズ・スタンダード」を流しているのではないかと思う程、ジャズの中でもスタンダードな番組だと思う。それに対し、「Stylish Jazz」は自分の知っているジャズとは懸け離れており、このようなジャズも有るのだと驚いた。インテリアデザイナーという職業柄、どのような空間でこの番組が流れると良いか考えたが思い浮かばなかった。確かに東京で、それも真新しい商業施設でこの番組が流れていたら合うと思うが、テンポが非常に速い楽曲も含まれていたのも普通のお店で流すには向いていない。

【放送局】

テンポが速い楽曲は敢えて選曲したが、どの程度含めるか非常に悩んだ。

【審議委員】

テンポを一定にするのなら格好良いバー等で流すのには良い。一曲一曲主張が強いので普通の店でBGMとして聴き流すのは難しいが、新しさや透明感、格好良さは感じたので場所は選ぶが合う場所には非常に良く合う番組だと思うし、USENでなければ「Stylish Jazz」のような斬新な番組は作れないと思う。

【審議委員】

私が大学に入学した1970年当時はジャズ喫茶が沢山有り、ジャズ好きの先輩に連れて行かれた。私の同世代ではジャズとロック、フォークにはまった人に綺麗に分かれると思うが、私はその中でもフォークにはまったのでジャズにはあまり馴染みが無い。今になって当時ちゃんとジャズを聴いておけば良かったと思うし、現に居酒屋でもジャズテイストのBGMが

流れているということは、きっと私と同じように思っている同世代が時間や気持ちにゆとりが出来て、ジャズも聴いてみたいと思っているからだと思う。そのような人達は「ジャズ・スタンダード」という番組名を聞くと、誰でも知っているヒット曲のジャズアレンジカヴァーが流れる番組かと思ってしまうが、実際に「A-13 ジャズ・スタンダード」を聴くと知っている曲は流れないので番組名は考え直した方が良いと思う。

ディレクターは、「A-13 ジャズ・スタンダード」と「Stylish Jazz」を全く違う番組として選曲していると思うし、ジャズに詳しい人は違いが分かると思うが、私はジャズに詳しくないので 2 番組を聴き比べた時に大きな違いが有るとは思わなかった。それでも「Stylish Jazz」の中には耳に留まる曲が数曲有り、その選曲の幅広さに「A-13 ジャズ・スタンダード」には無い新しさを感じた。

USEN の番組表を見ると私には番組名だけではどのような選曲か分からない番組も有るが、ジャズだけでもこれだけ沢山の番組が有るという事はやはり聴く人のニーズが有るという事だと思し、ジャズは奥が深い。また、先程も述べたが、若い時はジャズを聴いていなかったが今ジャズを聴きたいと思っている 60 代以上の人が沢山居ると思うので、彼らをターゲットにして番組を制作すると USEN を使う人の全体の満足度は上がるだろう。

【審議委員】

「A-13 ジャズ・スタンダード」は何処で流れていても心地良く聴こえるだろうし、審議会が終わってからも聴き続けようと思う程、素晴らしい番組だ。1954～64 年当時にジャズを熱心に聴き、一番刺激を受けていた世代は若くても 70 代になっているし、当時のジャズが今の時代のスタンダードなジャズかと言われると違うと思う。実際に選曲されているのは名演奏中の名演奏であり、だからこそ古さや新しさを超えた普遍的な BGM になっているし、若いディレクターが丁寧に選曲しているのである種の新しさも有る。

「Stylish Jazz」はどのように選曲したのか非常に興味が有る。聴いた中では私が知っているアーティストはほとんど居なかった。また、様々な国籍のアーティストが選曲されているが、ジャズの良質なマーケットである日本に来日するような著名なアーティストであるという訳でもない。制作する際は、選曲に使える作品が有る可能性を期待して CD を地道に聴くのだろうか。

【放送局】

USEN では日々、世界各国で発売される CD を購入しており、ジャズで言うと毎月 150 枚程度の CD を聴く中で BGM 性が高く、番組として構成が可能なスタイリッシュで良質な作品であると感じたものを選曲している。

【審議委員】

思った通りだ。若い人が選曲している事も有り、偶然の産物である選曲の面白さが有る。

では、「Stylish Jazz」は何処で流れていたら良いかという話になる。ニューヨークで今一番人気のレストランと言えばラーメン屋だと思う。日本で 680 円のラーメンを食べている人が居る一方で、ニューヨークのラーメン屋は非常にモダンで、日本人客はほとんどおらず、ラーメン一杯に 30 ドル、40 ドルも支払う。また、ニューヨークには IT 業界で活躍する 30 代、40 代の人達から予約が取れない程人気なエスニック料理屋が有る。そこは自分が頼んだ料理でも一品一品説明を聞かなければどのような料理か分からない品が提供されるにも関わらず一人単価 400 ドルと高く、しかもその目新しさや料金の高さが人気の理由となっている。これはニューヨークの話であり日本とはマーケット自体に国力の差があるが、そのようなマーケットが日本にも有っても良いと思し、「Stylish Jazz」はそのような目新しさや料金の高さが売りの店で流れていたら良いと思う。いっそのこと「Stylish Jazz」ではなく「Ethnic Jazz」という番組名にしてはどうか。

【審議委員】

USEN の番組は通常心地良く聴く BGM として使われることを想定して選曲していると思うが、「Stylish Jazz」はディレクターが日々の業務の中で集めた良質な作品が溜まった結果出来た番組だ。
ディレクターはとても若いですが、昔のジャズを全部聴いたのだろうか。

【放送局】

全部は聴いていない。

【審議委員】

それでもジャズが好きで、世界各国で発売される作品を聴く中で自分の感覚で良い作品を選曲して、結果「Stylish Jazz」という一つの番組にまとめる事が出来ている。これは素晴らしい事であり、今は企画段階だが実際に USEN の番組としてリリースが決定したら凄い番組になる。アルバムとして発売しても、恐らく非常に良いアルバムになるだろう。
「A-13 ジャズ・スタンダード」はその名の通り「スタンダードなジャズ」という決まったイメージがあるが、「Stylish Jazz」は一から選曲して、これまでにない新しい番組を創り出しているのもっと個性を打ち出して良いと思う。

【審議委員】

「A-13 ジャズ・スタンダード」の選曲は非常に良く、聴いていてとても心地良いが、だからこそ違和感が有る。歴史的に言うと、ジャズは人種差別に対する黒人の戦いであり、その中で名曲や名演が生まれた事を知っているからだ。彼らが最終的にドラッグで死んだという時代背景を知っていると、あまりにも心地良く聴こえることに対して違和感を覚えてしまう。

【審議委員】

黎明期のモダン・ジャズには「この楽曲ならこのアーティストの演奏が定番だ」という認識が特に有ると思うが、この番組は定番を選曲している番組ではない。若いディレクターがモダン・ジャズの黎明期の定番を敢えて選曲している訳ではないというのは聴いていて分かるし、そこが心地良さに繋がっている。

【審議委員】

当時のモダン・ジャズは攻撃的だった。その中でも攻撃的なものを敢えて除いてまとめると、このように心地良く聴ける番組になるのだろうと思う。

【放送局】

BGM 的な要素が強い演奏の楽曲を選んでいるからというのもあるだろう。

【放送局】

私が USEN に入社した時も、「A-13 ジャズ・スタンダード」に対して審議委員と同様の感想を抱いた。「A-13 ジャズ・スタンダード」はジャズを身近に楽しむ為の番組であり、黒人ではなく白人から見たモダン・ジャズだと感じた。

【放送局】

如何に名演と言えども攻撃的なモダン・ジャズを選曲すると、今とは違った印象の番組になるということか。

【審議委員】

心地良さだけでなく、緊張感を感じる番組になるだろう。

【審議委員】

例えば、Lee Morgan「I Remember Clifford」は音源を聴いただけでは攻撃性は感じないし、他にも聴いただけでは攻撃性を感じない作品は沢山有る。また、George Shearing など白人でも当時から人気のアーティストは居る。

【放送局】

この番組を聴く人全員がジャズに対してそこまで深い知識を持っている訳ではないだろうが、違和感を拭い、万人受けする番組にする為の工夫も今後検討したい。

【審議委員】

ジャズの歴史と実際の選曲内容にはギャップが有るように感じる。

【審議委員】

USEN には、番組名に「モダン・ジャズ」が入った番組が既に 2 つ有り、「A-13 ジャズ・スタンダード」まで番組名に「モダン・ジャズ」を使ってしまうとこの番組を使っている人も戸惑うだろう。実際は名演奏集だが、どのような番組名にすれば適切かと言われると思ひ浮かばない

【放送局】

ここまでの審議で「A-13 ジャズ・スタンダード」は心地良さが有り、利用シーンもイメージ出来るが、「Stylish Jazz」は緊張感が有る、主張が強い、BGMとして聴き流せない、そして利用シーンがイメージ出来ないという意見が有った。

【審議委員】

「Stylish Jazz」の利用シーンは今すぐには思ひ浮かばないが、思ひがけない場所に似合いそう。先程「Ethnic Jazz」という番組にしてはどうかと言ったのは、店で提供される料理によってはこの番組が似合うだろうと思ったからだ。

【審議委員】

それは緊張感が有るレストランで、ということか。

【審議委員】

緊張感が有る必要は無く、必ずしもエスニック料理を提供する店という訳でもない。メニューや食材に斬新さや拘りが有るレストランならば、和食でもおでん屋でも良いと思う。

【審議委員】

レストランではないが、ギャラリーはイメージし易い。

【放送局】

なるほど、そういう場所は何となくイメージできる。しかし、様々な場所で利用してもらう為には緊張感が有るのは良くないのではないかな。

【審議委員】

しかし、曲の主張が強いという事はアーティストの思い入れの表れであり、そもそも彼らは万人受けを目指している訳ではないだろう。人を寄せ付けない雰囲気は「Stylish Jazz」の魅力でもあると思うので、そのような作品を上手に選曲して欲しい。

【放送局】

ジャズは奥が深く、今回審議頂いた2番組に対する意見は他のジャズ番組の制作にも生かす事が出来るだろうと思う。

【審議委員】

USENにはジャズ番組が数多く有るが、編成的にこれ程の番組数が必要なのかな。

【放送局】

例えば、ジャズの中でもフュージョンにカテゴライズされている番組は勿論ジャズの1ジャンルではあるが、メインストリームのジャズではなくイーजीリスニングと同じような感覚で選曲している番組なので、今回審議頂いた2番組とは選曲内容が全く異なる。また、今回の審議の中でも意見が有ったような誰でも知っているヒット曲のジャズアレンジカバーが流れる「I-21 J-POP JAZZ COVERS」、「I-22 POPULAR JAZZ COVERS」や、USENがオリジナルで楽曲を制作している「B-64 和風ジャズ」も厳密に言うとジャズではないと考えている。

【審議委員】

「C-25 JAZZ (diskunion)」はディスクユニオンが推薦する現代ジャズを放送していると資料に書いているが、実際はどのような楽曲が放送されるのかな。

【放送局】

diskunionから購入したCDの中で、diskunionのバイヤーが毎月おすすめを教えてくれる。

【放送局】

USENではジャズだけではなく他のジャンルでもdiskunionのような店や媒体、人とのコラボレーション番組企画が有る。「C-25 JAZZ (diskunion)」はdiskunionの店舗が無い地域に住んでいる人にとっては、「diskunionのおすすめを聴く事が出来る」という一種のブランディングになっている。また、近年レコードブームが再燃しており、レコード好きにとってdiskunionはレコードブームのアイコンの一つだ。その為、凝った番組名を付けるより番組名に「diskunion」が入っている方が使われ易い。ジャズは詳しくないがdiskunionは知っているという人も多いので、そういう人達に使って頂きたい番組でもある。

今回審議頂いた2番組に対しては肯定的なご意見が多かったが、番組名に対する指摘も有った。また、「A-13 ジャズ・

スタンダード」は聴く方の知識や世代によっては違和感を抱くというご意見も有ったので、今後その違和感を拭うような工夫をしていきたい。「Stylish Jazz」は利用シーンが明確にイメージ出来ないというご意見も有ったが、サービスとして提供する以上、一人でも多くの方、一軒でも多くの店舗で使って頂きたいので、改めて選曲内容を検討したい。